

西洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史概論	古代・中世ヨーロッパの国家と社会	2	浅岡 善治	前期 水曜日 2 講時	ヨーロッパ史概論
西洋史概論	近現代ヨーロッパの国家と社会	2	浅岡 善治	後期 水曜日 2 講時	ヨーロッパ史概論
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	前期 水曜日 3 講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	後期 水曜日 3 講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	前期 金曜日 4 講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	後期 金曜日 4 講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献講読	2	矢口 啓朗	前期 水曜日 4 講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献講読	2	矢口 啓朗	後期 水曜日 4 講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史各論	中世ブリテン諸島の史料と社会	2	有光 秀行	後期 月曜日 4 講時	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	古代地中海世界における神々と社会	2	長谷川 岳男	通年集中 その他 連講	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	ソヴェト民主主義と自由	2	松戸 清裕	後期 火曜日 3 講時	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	ハプスブルク君主国史研究	2	篠原 琢	通年集中 その他 連講	ヨーロッパ史各論
西洋史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	前期 木曜日 2 講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	後期 木曜日 2 講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	前期 火曜日 2 講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	後期 火曜日 2 講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	前期 火曜日 4 講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	後期 火曜日 4 講時	ヨーロッパ史演習

科目名：西洋史概論／ European and American History(General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB53209 科目ナンバリング：LHM-HIS204J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目： 古代・中世ヨーロッパの国家と社会
2. Course Title (授業題目) : State and Society in Ancient/Medieval Europe
3. 授業の目的と概要： 「国家」と「社会」の観点から、前近代ヨーロッパの歴史過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The theme of this course is to reexamine/reconstruct the processes of ancient/medieval European history from a viewpoint of "state" and "society".
5. 学習の到達目標：
 - ・「国家」と「社会」の観点から、西洋古代・中世史の展開過程を把握する
 - ・西洋古代・中世史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標) :
 - ・To grasp the outline of the ancient/medieval European history from a viewpoint of "state" and "society"
 - ・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about European history
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
 2. 古代ギリシアにおける国家と社会
 3. ヘレニズム期における国家と社会
 4. 古代ローマにおける国家と社会
 5. 中世ヨーロッパ世界の形成
 6. 「中世封建社会」(1)
 7. 「中世封建社会」(2)
 8. 中世都市と農村
 9. 皇帝と教皇
 10. 「近世」への推転(1)
 11. 「近世」への推転(2)
 12. イギリス革命(1)*
 13. イギリス革命(2)*
 14. イギリス革命(3)*
 15. 総括と展望

*後期の進行との兼ね合いから、前期では 17 世紀イギリス革命までを扱う
8. 成績評価方法：

試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984 年、を挙げておく。
10. 授業時間外学習： 「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business
12. その他：なし
なし。

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43204 科目ナンバリング：LHM-HIS204J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目： 近現代ヨーロッパの国家と社会
2. Course Title (授業題目) : State and Society in Modern/Contemporary Europe
3. 授業の目的と概要： 「国家」と「社会」の観点から、近現代ヨーロッパの歴史過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The theme of this course is to reexamine/reconstruct the processes of modern/contemporary European history from a viewpoint of "state" and "society".
5. 学習の到達目標：
 - ・「国家」と「社会」の観点から、西洋近現代史の展開過程を把握する
 - ・西洋近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標) :
 - ・ To grasp the outline of modern/contemporary European history from a viewpoint of "state" and "society"
 - ・ To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about European history
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
 2. 「イギリス革命」再論
 3. アメリカ独立革命
 4. フランス革命(1)
 5. フランス革命(2)
 6. フランス革命(3)
 7. 国民国家とナショナリズム
 8. 1848/49 年革命
 9. 「良き時代」
 10. 世界戦争と総力戦体制
 11. ロシア革命(1)
 12. ロシア革命(2)
 13. 冷戦と脱植民地化
 14. 現代の「革命」
 15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984 年、を挙げておく。
10. 授業時間外学習： 「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし
 - なし。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33302 科目ナンバリング：LHM-HIS210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read elementary German texts about the modern/contemporary European history with guiding some basic skills for historical research.

5. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend German texts, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論(1)a

3. 試訳の検討と討論(1)b

4. 試訳の検討と討論(1)c

5. 試訳の検討と討論(1)d

6. 試訳の検討と討論(1)e

7. 小括(1)

8. 試訳の検討と討論(2)a

9. 試訳の検討と討論(2)b

10. 試訳の検討と討論(2)c

11. 試訳の検討と討論(2)d

12. 試訳の検討と討論(2)e

13. 小括(2)

14. 課題発表(1)

15. 中間的総括(1)

8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%

9. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. 日本語の参考文献としては、木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書、2014 年。

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43302 科目ナンバリング：LHM-HIS210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read elementary German texts about the modern/contemporary European history with guiding some basic skills for historical research.

5. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the basic ability to read and comprehend German texts, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論(1)a

3. 試訳の検討と討論(1)b

4. 試訳の検討と討論(1)c

5. 試訳の検討と討論(1)d

6. 試訳の検討と討論(1)e

7. 小括(1)

8. 試訳の検討と討論(2)a

9. 試訳の検討と討論(2)b

10. 試訳の検討と討論(2)c

11. 試訳の検討と討論(2)d

12. 試訳の検討と討論(2)e

13. 小括(2)

14. 課題発表(1)

15. 中間的総括(1)

なお本授業はオンライン実施を基本とする。

8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%

9. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. 日本語の参考文献としては、木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書、2014 年。

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：有光 秀行

コード：LB35401 科目ナンバリング：LHM-HIS210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目) : Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史 k 研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1066 年のノルマン人によるイングランド侵攻の顛末を描写する「バイユのつづれ織り」を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1 回あたり 15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。)

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB45401 科目ナンバリング：LHM-HIS210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史 k 研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1066 年のノルマン人によるイングランド侵攻の顛末を描写する「バイユのつづれ織り」を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1 回あたり 15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。)

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：矢口 啓朗

コード：LB33405 科目ナンバリング：LHM-HIS210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： フランス語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：(1) ヨーロッパ史研究において重要な地位を占めるフランス語の基礎的読解能力を高める。
(2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治史についての基礎的知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aims of this course are

- (1) to develop basic reading skills of French, which occupies an important position in study of European history;
- (2) to increase knowledge of history of 19th European international relationships.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語文献の基本的な読解能力を身につける。
- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治の特徴や構造を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of this course, participants are expected

- (1) to get basic skills about reading of French books;
- (2) to understand features and construct of 19th European international relationships.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

19 世紀ヨーロッパ国際政治史について、フランス語で書かれた文献を序章から読み進めていく。指定したテキストの範囲について、あらかじめ和訳を作ってから授業に臨むこと。また、テキスト読解中に出てきた歴史的概念や専門用語についても調べておくこと。授業では基本的には一文ずつ、指名された学生が訳文を発表した上で、討論を通じて訳文を検討し、より正確な訳文を作成していく。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。また学期末には、ヨーロッパ史の理解を各自で深めていくことを目的として、レポートを課題として提示する予定である。そこでアカデミックライティングの技法についても学んでゆく。

第 1 回：授業ガイダンス、授業の進め方やテキストの説明。

第 2-15 回：試訳の検討。第 11 回でレポートの課題を提示する。

8. 成績評価方法：

- (1) 出席及び授業態度 (30%)
- (2) 仏文和訳を通じた正確な読解力の修得度 (40%)
- (3) 期末レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可）を用意してくること。テキストは Jacques-Alain de Sédouy (2009), *Le concert européen : aux origines de l'Europe (1814-1914)*, Paris: Fayard. を予定している。テキストについては、初回にそのコピーを配布する。参考書は適宜授業内で指示する。

10. 授業時間外学習： 予習として、必ず指定されたテキストの箇所を読みこんだ上で、日本語訳を作成しておくこと。また復習として、テキストを読み返しつつ、日本語訳の修正版を作成すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

オフィスアワー・連絡方法等については、第 1 回のガイダンスで説明する。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：矢口 啓朗

コード：LB43405 科目ナンバリング：LHM-HIS210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： フランス語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：(1) ヨーロッパ史研究において重要な地位を占めるフランス語の基礎的読解能力を高める。
(2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治史についての基礎的知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aims of this course are

- (1) to develop basic reading skills of French, which occupies an important position in study of European history;
- (2) to increase knowledge of history of 19th European international relationships.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語文献の基本的な読解能力を身につける。
- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治の特徴や構造を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of this course, participants are expected

- (1) to get basic skills about reading of French books;
- (2) to understand features and construct of 19th European international relationships.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に引き続き、19 世紀ヨーロッパ国際政治史について、フランス語で書かれた文献を序章から読み進めていく。指定したテキストの範囲について、あらかじめ和訳を作ってから授業に臨むこと。また、テキスト読解中に出てきた歴史的概念や専門用語についても調べておくこと。授業では基本的には一文ずつ、指名された学生が訳文を発表した上で、討論を通じて訳文を検討し、より正確な訳文を作成していく。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。また学期末には、ヨーロッパ史の理解を各自で深めていくことを目的として、レポートを課題として提示する予定である。そこでアカデミックライティングの技法についても学んでゆく。

第 1 回：授業ガイダンス、授業の進め方やテキストの説明。

第 2-15 回：試訳の検討。第 11 回でレポートの課題を提示する。

なお本授業はオンライン実施を基本とする。

8. 成績評価方法：

- (1) 出席及び授業態度 (30%)
- (2) 仏文和訳を通じた正確な読解力の修得度 (40%)
- (3) 期末レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可）を用意してくること。テキストは Jacques-Alain de Sédouy (2009), *Le concert européen : aux origines de l'Europe (1814-1914)*, Paris: Fayard. を予定している。参考書は適宜授業内で指示する。

10. 授業時間外学習： 予習として、必ず指定されたテキストの箇所を読みこんだ上で、日本語訳を作成しておくこと。また復習として、テキストを読み返しつつ、日本語訳の修正版を作成すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

オフィスアワー・連絡方法等については、第 1 回のガイダンスで説明する。

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB61404 科目ナンバリング：LHM-HIS305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：中世ブリテン諸島の史料と社会

2. Course Title (授業題目)：Sources and society in medieval British Isles

3. 授業の目的と概要：中世ブリテン諸島史の史料と、その歴史学における利用の仕方を、具体的に理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is understanding medieval sources of the British Isles and how to interpret them historically.

5. 学習の到達目標：

中世ブリテン諸島史の史料のあり方と、その歴史学における具体的な利用の仕方を、理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is understanding medieval sources of the British Isles and how to interpret them historically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 中世イングランド史の史料とは
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 年代記論：『マンと諸島の年代記』を中心に
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. アイルランドの諸年代記
11. 同上
12. 同上
13. マン島関連の証書
14. 同上
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) とレポート (50 パーセント)。

9. 教科書および参考書：

教室で指示します。

10. 授業時間外学習：教室で指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：長谷川 岳男

コード：LB98815 科目ナンバリング：LHM-HIS305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：古代地中海世界における神々と社会
2. Course Title (授業題目)：The Gods and Societies in the Ancient Mediterranean World
3. 授業の目的と概要：ギリシア神話でお馴染みのギリシア・ローマ世界の神々は、一般的な認識での宗教の神(々)とは違い、当時の地中海世界においては生活の現実において重要であった。本講義ではその神々や半神(神々と人間の間の子)が当時、人々にとっていかなる意義を有していたのかを、ギリシア人やローマ人のアイデンティティ形成の視点から説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will explain what meaning the Greek and Roman Gods and Heroes had for the ancient Greeks and Romans, especially taking formations of their identities into consideration.
5. 学習の到達目標：
 - ・ギリシア神話がいかなるものかを理解できるようになる。
 - ・古代ギリシア・ローマ世界において神々や儀礼が果たした役割が理解できるようになる。
 - ・宗教に関する現代社会との差異から現代社会の特質を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main objective of the lectures is to draw on students to reconsider their own society in contrast with the ancient Mediterranean societies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ギリシア・ローマ神話と古代史研究
 3. 古代世界における神話と宗教 1 (神話とは何か?)
 4. 古代世界における神話と宗教 2 (近代における神話学の成立)
 5. 古代世界における神話と宗教 3 (近年の研究動向)
 6. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 1 (縁起話とは何か?)
 7. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 2 (アルカディアのケース)
 8. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 3-1 (ペルガモンのケース 1)
 9. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 3-2 (ペルガモンのケース 2)
 10. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 4-1 (ローマのケース 1)
 11. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 4-2 (ローマのケース 2)
 12. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 4-3 (ローマのケース 3)
 13. 儀礼とコミュニティ
 14. 古代ギリシア・ローマ社会のアイデンティティ
 15. 総括
8. 成績評価方法：

試験もしくはレポート (第 1 回の講義の際に指示)
9. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない
参考書：適宜、指示する
10. 授業時間外学習：講義後、分からない固有名詞などは最初の講義で指示した事典などで調べることが望ましい。また講義内容をふりかえり、自分なりに現代社会との差異を確認することが必要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：松戸 清裕

コード：LB98816 科目ナンバリング：LHM-HIS305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：ソヴェト民主主義と自由

2. Course Title (授業題目)：Soviet democracy and freedom

3. 授業の目的と概要： ソヴェト民主主義と自由について検討し、ソ連の歴史と民主主義に関する理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to deepen understanding of Soviet history and democracy by examining Soviet democracy and freedom.

5. 学習の到達目標：

・ソヴェト民主主義について学び、ソ連の歴史に関する理解を深める。

・ソヴェト民主主義とソ連の歴史について学び、民主主義について考える視座を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To deepen understanding of Soviet history by learning about Soviet democracy.

・To get a perspective to think about democracy by learning about Soviet democracy and Soviet history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ソ連の通史ではなく、主にスターリン死後からペレストロイカ前夜までを対象時期として、ソヴェト民主主義の理念、制度、実態について論ずる。現在執筆中の原稿に基づくため、構成が前後する可能性がある。

第1回 本講義の内容、狙い、評価方法などの説明

第2回 ソヴェト民主主義の理念

第3回 ソヴェト民主主義の制度

第4回 ソヴェト民主主義における自由

第5回 ソヴェト政権と民意

第6回 前半のまとめ

第7回 「個別救済の制度化」という直接民主主義

第8回 全人民討議

第9回 ソヴェトの選挙

第10回 代議員候補者の選出

第11回 代議員のリコール

第12回 投票用紙への書き込み

第13回 「過度の寛容さ」というリベラリズム

第14回 非自由主義体制下の「自由」

第15回 まとめと評価

8. 成績評価方法：

第15回の授業時間中に理解度を確認する試験をおこなう。100%。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。松戸清裕『ソ連史』（ちくま新書、2011年）、同『ソ連という実験』（筑摩選書、2017年）が参考となる。

10. 授業時間外学習： 大学設置基準では授業時間も含めて1単位当たり45時間の学修が求められているが、集中講義のため毎回の講義の前後にこれを満たす予習復習をおこなうことは難しいだろう。このため、前半（6回）と後半（9回）に分けられた講義の間に、前半の復習と後半の予習を兼ねて、上記の2冊に目を通しておくことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：なし

なし。

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：篠原 琢

コード：LB98817 科目ナンバリング：LHM-HIS305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：ハプスブルク君主国史研究

2. Course Title (授業題目)：History of the Habsburg Monarchy

3. 授業の目的と概要： ハプスブルク帝国の領域は、ハプスブルク帝室が戦争と婚姻によって相続した雑多な諸王国・諸地域の複合的な集積でしかなく、そもそも近代国家を構成する凝集力に欠けており、帝国末期には、国民主義が浸透し、言語紛争が絶えなかった。長い 19 世紀は、そもそも帝国が必然的に衰退する過程であった……。この種の議論は、集権的で同質的な「国民国家」Nation State を近代国家の理念型として想定し、ハプスブルク帝国を近代ヨーロッパの発展から逸脱した「非正常」とみなす視点を暗黙のうちに持っている。帝国の継承諸国では、社

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Habsburg Monarchy was a mere amalgam of different territories acquired and inherited by the dynasty of Habsburgs through marriages and wars. Therefore, it was anachronistic existence by itself, lacking a potentiality to develop to an integrated modern sta

5. 学習の到達目標：

ハプスブルク君主国の歴史を概観しながら、「国民形成」、ナショナリズム、市民社会、帝國的秩序といったより一般的な歴史的テーマについて再検討を加える。ハプスブルク帝国史研究の現段階を理解するだけでなく、目的論的なヨーロッパ近代史の概念への批判的なアプローチを獲得することが授業の目標である。それを通して、現代世界の問題について、新たな歴史的視点を得ることを目指そう。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：We will survey basic historical development of Habsburg Monarchy in the “long Nineteenth century” from the time of French Revolution to the First World War to analyze more general notions such as nation-building, nationalism, civil society etc. The purpos

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一部：ハプスブルク君主国はどのように考えられてきたか

第1回：高校世界史と指導要領の中のハプスブルク君主国：高校教科書を中心に、講義で扱う地域（中央ヨーロッパ）がどのようにヨーロッパ史の中に位置づけられているのか、その記述の特徴を検討する。

第2回：ヨーロッパ史の中の「中央ヨーロッパ」：「東ヨーロッパ」として語られてきた地域を「中央ヨーロッパ」と捉え直すのはどのような意味があるか、考える。

第3回：ハプスブルク君主国の記憶：第一次世界大戦、帝国崩壊後、集合的記憶のなかで、ハプスブルク君主国はどのように想起されてきたか、概観する。

第4回：ハプスブルク君主国の 19 世紀史：「短い 20 世紀史」に、ハプスブルク君主国末期の歴史はどのように研究されてきたのか、研究史を振り返りながら、帝国史像を再検討する。

第5回：「できごと」としてのネイション-National Indifference 概念の挑戦：ネイションを社会的文脈に依存するものとして考える新しい研究動向を検討する。

第二部：帝国建設への道

第6回：ハプスブルク君主国の形成：神聖ローマ帝国とハプスブルク家ハプスブルク家がオーストリア諸邦支配を確立し、ドイツ王・神聖ローマ帝国皇帝位を獲得する過程を概観する。

第7回：諸身分と国王：フス戦争期から 30 年戦争にいたる 2 世紀間の君主と諸身分（議会）との緊張関係を宗派関係のなかで考える。そして、30 年戦争期にハプスブルク君主国がどのように国家の凝集力を確保していったのか検討する。

第8回：帝国建設への道：啓蒙改革期以降、諸王国・諸領邦の集合体であったハプスブルク君主国は、国家の支配機構を整えながら、次第に帝国としての体裁を整えていった。啓蒙改革期から 19 世紀前半までの時期を一体的な帝国建設過程として捉える。

第9回：ハプスブルク君主国と「ドイツ問題」：神聖ローマ帝国末期の「ドイツ政治」とハプスブルク君主国との関係を考える。君主国が帝国建設を模索するなかで、神聖ローマ帝国皇帝としてのハプスブルク君主は普遍的権威と独自の国家像をどのように結びつけようとしていたのか、問いなおす。

第三部：諸国民の社会

第10回：領邦愛国主義・国民文化・人民主権論：1820 年代より本格化する「領邦愛国主義 Landes patriotism」の生成・変容と、主権者としての「国民」の構築を検討する。政治的主体としての「国民」は帝国建設とどのような関係を取り結ぼうとしたのかを問いの中心とする。

第11回：「諸国民の春」1848 年革命：1848 年革命は、諸国民の社会を帝国国制にどのように位置づけるべきかを問題にしながら、帝国建設の方向性を改めて問い直すものだった。「革命」は敗北に終わったが、変化は不可逆的だった。革命のもたらした変化を帝国形成史のなかに位置づけ直す。

第12回：ペーメン諸邦における「言語闘争」1：ペーメン諸邦は帝国史における「民族問題 Nationalitätenfrage」の焦点であった。言語問題は帝国史研究にどのように位置づけ直されるだろうか。また、ナショナリストの活動は帝国国制・統治のなかで、どのように考えることができるだろうか。

第13回：ベーメン諸邦における「言語闘争」2

第14回：「ガリツィア王国」と「ポーランドの揺籃」：ポーランド分割によってハプスブルク君主国は「ガリツィア」を領有することになった。この「帝国辺境」の支配が、帝国支配の確立にどのように作用したのか考える。他方、ガリツィアは三分割されたポーランド諸地域のなかで、ポーランド・ナショナリズムが政治的・社会的・文化的にもっとも大きな達成をあげた場であった。帝国統治とナショナリズムとの関係を、ベーメン諸邦と比較しながら考える。

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

毎授業時のコメント（10点 x 4日）と最終レポート（2000字から4000字程度、60点）

9. 教科書および参考書：

1. Breuilly, John, Nationalism and the state, University of Chicago Press, 1994.
2. Brubaker, Rogers, Nationalism Reframed. Nationhood and the national question in the New Europe, Cambridge U.P., 1996
3. Brubaker, Rogers, Ethnicity without Groups, Camb

10. 授業時間外学習：特記なし。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

特記なし。

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB54207 科目ナンバリング：LHM-HIS312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目： ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討
2. Course Title (授業題目)：Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学習の到達目標：
専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表 (1)
 15. 中間的総括 (1)
8. 成績評価方法：
出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：
望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Bailey Stone, Rethinking Revolutionary Change in Europe: A New Structuralist Approach, Lanham/Boulder/New York/London, 2020.
その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB64207 科目ナンバリング：LHM-HIS312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目： ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学習の到達目標：
専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表 (1)
 15. 中間的総括 (1)

なお本授業は対面実施を基本とする。
8. 成績評価方法：
出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：
浜林正夫・佐々木隆爾編『歴史学入門』有斐閣、1992年；Bailey Stone, Rethinking Revolutionary Change in Europe: A New Structuralist Approach, Lanham/Boulder/New York/London, 2020.
その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB52208 科目ナンバリング：LHM-HIS312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History
3. 授業の目的と概要：ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important handbooks and encyclopedias will be provided.
5. 学習の到達目標：
ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中世後期ヨーロッパに関するドイツ語の学術論文を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所の訳文を授業前に作成し、メールで提出する。授業ではその訳文を検討する。そのため、参加者全員が授業前にその日に読み進める箇所を読解しておくことが求められる。
学期の中間と最後には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50 パーセント) と中間・期末課題 (50 パーセント)
9. 教科書および参考書：
授業には独和辞典を持参。その他事典等については授業中に適宜指示する。読解する文献は初回に配布する。
Please bring your German-Japanese dictionary to the class. The use of other dictionaries, handbooks and encyclopedias is instructed in the class. The German thesis will be provided to students at the first class.
10. 授業時間外学習：参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予復習しておくこと。
Students are required to prepare for and to review the class every week.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB62206 科目ナンバリング：LHM-HIS312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History
3. 授業の目的と概要：ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important handbooks and encyclopedias will be provided.
5. 学習の到達目標：
ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中世後期ヨーロッパに関するドイツ語の学術論文を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所の訳文を授業前に作成し、メールで提出する。授業ではその訳文を検討する。そのため、参加者全員が授業前にその日に読み進める箇所を読解しておくことが求められる。
学期の中間と最後には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50 パーセント) と中間・期末課題 (50 パーセント)
9. 教科書および参考書：
授業には独和辞典を持参。その他事典等については授業中に適宜指示する。読解する文献は初回に配布する。
Please bring your German-Japanese dictionary to the class. The use of other dictionaries, handbooks and encyclopedias is instructed in the class. The German thesis will be provided to students at the first class.
10. 授業時間外学習：参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予復習しておくこと。
Students are required to prepare for and to review the class every week.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB52403 科目ナンバリング：LHM-HIS312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu

5. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1 ページを 2 回くらいで読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。

9. 教科書および参考書：

雑誌 Annales de Normandie の 2019 年 1 号に掲載された、Jean-Philippe Genet による、11 世紀のイングランド・大陸関係を扱った論文を読む予定です。テキストは東北大学よりアクセス可能であり、その方法については初回に説明します。

10. 授業時間外学習：毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB62404 科目ナンバリング：LHM-HIS312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu
5. 学習の到達目標：
さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1 ページを 2 回くらいで読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
奇数セメスターにつづき、雑誌 Annales de Normandie の 2019 年 1 号に掲載された、Jean-Philippe Genet による、11 世紀のイングランド・大陸関係を扱った論文を読む予定です。テキストは東北大学よりアクセス可能であり、その方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：なし